

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年1月8日(木)
文責: 情野 夏美

教職員・指導主事向けオンラインセミナーを視聴して2

以前、配布いただいた令和7年度全国学力・学習状況調査等の調査結果を踏まえた「教職員・指導主事向けオンラインセミナー」を視聴されましたか? 算数・数学の第1回と第2回を視聴し、そこで大事だな、授業に生かせそうだというところをまとめましたので、お読みいただけます。今回は、第2回目についてです。お二人の雑談もあり、楽しく視聴しました!

【第2回】

「算数・数学科におけるデジタル活用」

堀田 龍也氏 東京学芸大学教職大学院教授・学長特別補佐
教育課程課教科調査官 加固 希支男氏

(1) 算数の授業の様子をもとに「デジタル学習基盤」の役割を考える

～加固学級の実践から学ぶこと～

- ・自由の中にも規律がある。
- ・教科書にある典型的な問題を使う。
- ・教科書よりは自由度が高い。
- ・子どもは忙しく熱中する。
- ・自分の考えが大事にされている。
- ・友達に相談や聞いてもらうと嬉しそう。
- ・教師は高次な見方を誘発して回る。
- ・教師も忙しく状況把握と活性化を図る。
- ・この問題が解けるということがゴールではなく、より一般化された解法を求める。



授業のデジタル基盤（授業のどこにデジタルが使われているか）

- ① 指示を確実に伝える→前時の児童の学習プリントに教師がポイントを書き込んだ写真を電子黒板に映して指示する。
- ② 学習を支援する資料等の共有→困ったらいつでも参照できる安心感
→既習とのつながりを大事にする。
→これまでの学習の履歴を残す（デジタルなら蓄積できる、前にアクセスできる）
→板書をクラウドにアップする（毎時間行うことで習慣化、係活動になっている所もある）
板書は議事録から「次の学びに使われるもの」に変わっているからこそ、消えて終わりになつてはいけない。
- ③ 今日分かったことの言語化→ふり返りを共有することで、友達の文章を読んにより精緻になる。
- ④ 他者参照できる→友達の考え方を見て、自分の間違いに気づき、考えを改める。
＝自己調整

※stuDX style …ICT 活用実践サイト

(2) 学習内容の習熟のための「デジタル学習基盤」の活用例

- ・ワークドリルの答えをクラウド上にアップしておく。
→答え合わせは、自分で行わせたほうがいい。
AIによる自動採点もあるが、まだ進んでいない。
- ・デジタルドリルでは、データが把握しやすくなっている。
その分、やらせっぱなしではいけない。
どう学ぶかを教えていく必要がある。

(3) 深い学びを促すようにする生成 AI の活用例

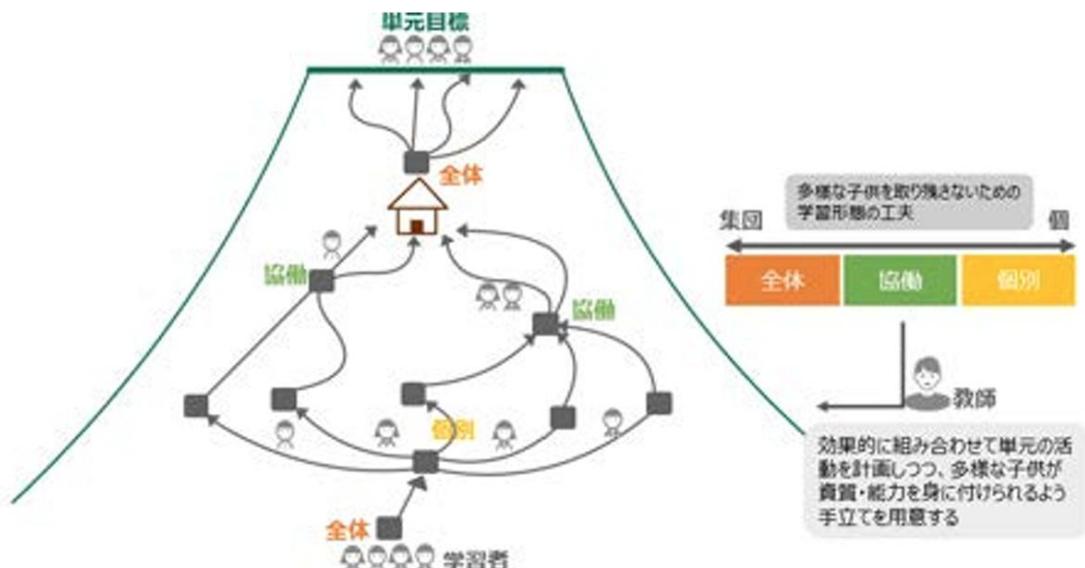
使っている人ほど怖いと感じない、使っていない人ほど怖いと感じる…

生成 AIとのやりとり

- 答えを教えない設定をあらかじめしてしまう。
ヒントを与える、質問は1つずつなどと条件を伝える。
児童が答えをすぐ聞くと、交わすようになっている。
- chat GPTだけではなく、友達とも学ぶことを推奨する。
- 学びの意味をしっかりと教える。
- 解き方を説明すればいいではない。
- 多様な子どものすべてに深い学びをさせるには、生成 AIが必要になってくる。
※意味を伴う使い方をしっかりと教えていく。

(4) まとめ

～理想の学習の在り方～



※サポートマガジン みるみる（文部科学省）より

デジタルは、望ましい使い方をするために、望ましい使い方を学んでいく必要がある。

1、2回使うでは意味がない。有効になるまで使い続けることが大切。
教師もいろいろなことにチャレンジしていく。